

西神ニュータウン研究会 会報

第206号 2020年10月

■第206回特別例会記録

- ・日時 2020年9月26日(土) 14:00~16:00
- ・場所 ユニティ・セミナー室4 ・参加者 42名
- ・テーマ 西区 旧村の歴史
～古老が古老に聞くシリーズ全7村総括～
- ・発表者 大海 一雄氏(西神ニュータウン研究会会長)
- ・ゲスト 大越智 恒和氏(樫谷町)
長田 敏美氏(神出町)



■概要 西区は摂津と播磨

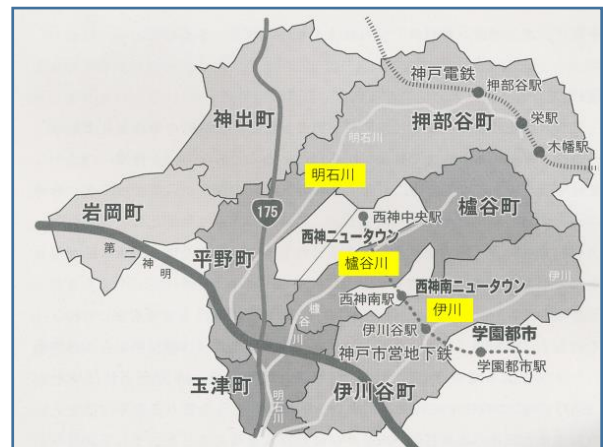
西神ニュータウンは、西区の丘陵地帯を造成して造られたので、新しい各町の名前には元の村の地名が埋め込まれています。例えば樫谷中学校などの学校名や、井吹台東町などの町名に、旧村ゆかりの名が使われています。

西神ニュータウン研究会では、西区内七つの旧村(町)(平野町、樫谷町、伊川谷町、押部谷町、岩岡町、神出町、玉津町)の歴史や文化を調べ、それぞれの旧村にお住まいの古老の方々に来ていただいてお話を聞いてきました。

私自身高齢になりましたので、「古老が古老に聞くシリーズ」と銘打って、6年前に平野町から始めましたが、昨年秋の玉津町で七つの村(町)全部を取り上げることができました。

おかげで各村の歴史はよく分かりましたが、隣の村との関係や、ニュータウンとの関わり、さらにはもっと広域的な視野も必要かと思うようになり、今回の総括となりました。

これまで発表したスライドのいくつかで各村の歴史や文化その他の特徴を改めて振り返って見ましたが、それぞれに貴重な歴史的な遺産がたくさんあることがわかりました。



最後にまとめとして、西区は昔の国名で言えば、「摂津」か「播磨」という話題を取り上げました。

これは、兵庫県が「我が県は五つの国からなる」というPRを行っている中で、西区は神戸市に属しているのですが、どうも違和感を感じました。

西区は1000年も前から播磨の国であって、その歴史を変えることはできません。しかし西神ニュータウンの建設などで、神戸市中心部との結びつきが強まり、摂津の風が吹いてきたのも事実です。

明石西国33ヶ所の太山寺と転法輪寺の間は、かつては稜線がありました。ここが播磨と摂津の国境（もっと言えば畿内とその他を区分する境界）だったわけです。その稜線が研究学園都市の建設のために削られ、その土はポートアイランドなどへ運ばれました。そこへできたニュータウンに地下鉄や道路が建設され、神戸市の中心部に直接つながることで、摂津の風が吹きこんできたのです。



司馬遼太郎は「神戸は摂津と播磨」であると書いています。

このように歴史・地政学と開発の経緯を合わせて考えると、「西区は摂津と播磨からなる」と言えるのではないのでしょうか、と締めくくって、永きにわたったコロコロシリーズの総括としました。

今回ゲストで出席し、貴重なご意見を聞かせてくださった大越智恒和氏、長田敏美氏をはじめ、それぞれのシリーズでお話を披露してくださった方々に感謝申し上げます。